

# 人生の

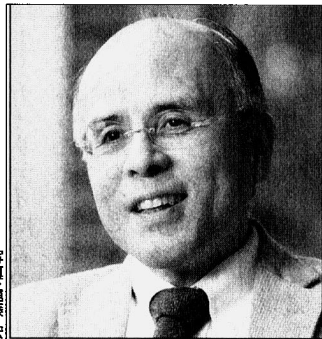
# 道しるべ

あなたの悩みに答えます

**森本あんり**

(国際基督教大学教授)

一九五六年、神奈川県生まれ。プリンストン神学大学院博士課程修了(P.D.)。著書に「反知性主義」「不寛容論」「いすれも新潮選書」など。



写真：遠藤 宏

## 相談 夢の呪縛から解放されたい

夢に関する相談です。卒業から十五年経つのですが、いまだに大学時代に途中で辞めた卓球部のことを夢に見ます。状況はいつもだいたい

緒で、一度は辞めた部に戻ったものの、同期や先輩の視線を気にしつつ卓球台に向かう……というところで終わり、決していい目覚めではありません。

大学時代を振り返ると、一年生の

ころは時間も頭の中も部活漬けの毎日で、練習した分、上達したのでやりがいを実感していたのですが、二年生になると成長が鈍化したうえ、いつの間にか義務感で卓球を続けている自分に気づきました。このままだとせっかくな浪人して大学に入った意味がない……と判断し、二年生の冬に突然退部しました。

いまは卓球からまったく足を洗い、またラケットを握りたいとは思いません。でもまだこんな夢を見るということは、どこかに未練があるということなのだと思います。

いい加減この呪縛から解放されたいのですが、何かよい方法はないでしょうか。

(東京都、四十歳男性、会社員)

## 回答

ANSWER

夢に関する相談とは、難しいですね。その昔、ラジオで「全国こども電話相談室」というのがありました。電話を受ける優しいお姉さんとは別に、各界の専門家が三人ほど控えていて、かかってきた電話の内容に応じて「では〇〇先生にご回答を願います」などと振り分けていました。できれば私も、そういう専門家にお任せしたい気持ちです。夢診断の専門家や、少なくとも精神分析のできる心理学者なら、きつと適切な答えができるでしょう。

誌上相談は、いただいた文面がすべてです。もし対面だったら、大学の時代の経験や現在の会社員生活につ

いて、もう少し背景事情を伺うことができたと思います。

とりわけ「決していい目覚めではありません」というその夢の終わり方は、どういう意味でそうなのか。「同期や先輩の視線を気にしつつ」とありますが、その視線は何に向けられているのか。

一度辞めて出戻ったということを経験しているのか、それとも、成長が鈍化して練習の成果が出ないことを非難しているのか。夢に出てくる人たちの意図はわかりませんが、夢を見ている本人がそれをどう受け止めたかはわかります。

相談の主旨が「いい加減この呪縛から解放されたい」ということなので、その解決方法を考えてみることに

にします。この場合、ご本人がご自分の方向に進みたいと思っっているのが鍵になるでしょう。もう一度卓球をやりたいのかどうか。

ところが、そこがよく握めないのです。一方では「卓球からまったく足を洗い、またラケットを握りたいとは思いません」と書いておられます。「足を洗う」なんて、まるでヤクザ組織からの足抜けみたいなのに聞こえるほどで、かなりきつぱりとした断絶です。しかし他方で、それなのにこんな夢を見続けている、というところで悩みが始まるわけです。

精神分析なら、明るい昼間の理性がする判断と、暗い夜の秘かな欲求とが矛盾している、という解釈になるでしょう。

本当は卓球というスポーツを再開して楽しみたいのに、計算づくの理性がそういう欲求を無意識の領域へと封じ込めている。だからその矛盾を解消するには、抑圧された心の叫びを解放して、自然な欲求に素直に従えばよい。あるいは、そんな未練がましい心のノスタルジーをきっぱりと捨て去るために、新しい趣味など、別の魅力ある活動を探して没頭すればよい、などです。

そういう解決方法もたしかにあると思います。でも私は、こういうお勧めは何となくどこかずれているように感じます。そんなお勧めを受け取っても、ご本人はさして気が晴れないのではないのでしょうか。

そこで、もう一度この相談の文面

私は、他に大学や学会でどんな大きな講演があっても、そんな夢を見たことはありません。でも、教会で説教をするときだけ、決まって前の晩あたりはその夢を見るのです。そして、その理由もよくわかっていません。それらは全部、「自分はその職務にふさわしくない」という不安な自意識の表れなのです。

相談者が現在どのような不安を抱えておられるのか、文面だけではわかりません。不安はいつも漠然としているので、本人もはっきりと認識できるわけではありません。

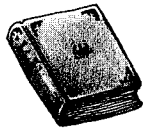
でも、卓球を再開したとしても、その不安が解決しない限り、この夢はかたちを変えて続くことでしょう。夢は、過去ではなくつねに現在

を読み直してみると、気がつくことがあります。「理性的な判断」と「無意識の欲求」との矛盾というストーリーは、それを聞いた第三者ではなく、ご本人がつくり上げている、ということですか。専門家に成り代わって、「こんな夢を見続けるということは、卓球にいまだに未練があるということに違いない」と分析しているのは、ご本人なのです。

もしかするとこれは、卓球とは何の関係もない話ではないか、と私は思います。卓球をやりたいくて未練が残っているからそういう夢を見るのではなくて、現在の自分が漠然と感じている不安が、自分のよく知っている経験世界の状況に置き換えられて表現されているのではないか。部

を照らし出すからです。だからその解決も、きつと過去ではなく現在にあるのではないかと思えます。

私のこの回答は、専門家の知恵とはほど遠いものです。しかし、ちょっと思い出してみると、あの「全国子ども電話相談室」でも、無着成恭さんみために、とんでもない回答ぶりで聞く人の悩みを根こそぎぶっ飛ばしてしまおう人がいましたね。人生相談って、ほんとはそういうほうがいいのかもしれない。



## 投稿要領

日常の相談事や悩みについて、400字詰め原稿用紙1枚程度で、住所、氏名、年齢、職業を記入のうえ(掲載は匿名)、ご送付ください。掲載分には、図書カードを呈呈致します。原稿は、内容を損なわない範囲で、一部を修整させていただく場合がございます。原稿は返却できません。掲載分は電子メディアや出版物などで公開する場合がございます。あらかじめご了承ください。

### 宛先

〒135-8137 東京都江東区豊洲5-6-52 NBF豊洲チャンネルフロント11階

株式会社PHP研究所 Voice編集部 人生相談係

メールでも投稿を受け付けております。

voice@php.co.jp